

共翔

第27号



● 目 次 ●

【巻頭言】「想い出す本のことなど」 櫻田美津夫……………2

【研究ノート】「幸福はラーメンのようなものなので
—働き方改革に幸福感を
意識してみては?—」 高木亮……………4

【図書館活動報告】……………6

【学生協働】

・シンポジウム参加報告……………8

【図書館セミナー実施報告】……………10

【学生協働】

・図書館サポーター自主企画報告……………12

・卒業する図書館サポーターからのエール……………14

・ブックハンティング報告……………15

【ブックガイド】……………16

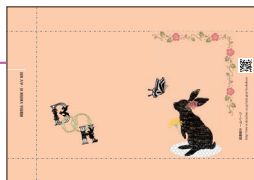
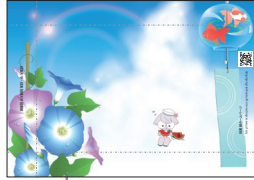
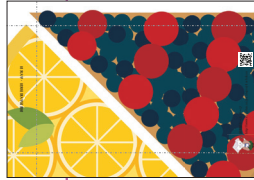
【ユーザーズガイド】

・ジャパンナレッジを使ってみよう……………18

・新書を探してみよう……………19

【利用者へのメッセージ】……………20

“学生が作成した文庫カバーです。”





京都三条大橋東詰の北側にある駅伝記念碑とともに (2019年8月9日)

巻頭言

想い出す本のことなど

就実大学教授 図書館長 櫻田 美津夫

大学教師生活のゴール地点がもう目前というところで、図書館報の巻頭言を書くというタスキが回ってきた。せっかく与えられた機会なので、思い出に残る本をなるべく多く書きとめておこうかと思う。筋立てもない雑然としたメモの寄せ集めになるが、どうか書名だけでも走り読みいただければ..

そもそも私に歴史学を選ばせたのはどんな本であったか。E・H・カー(清水幾太郎訳)『歴史とは何か』(岩波新書)は、学部生時代の私にはなかなか手ごわい本で、何度も何度も読み返した。集中力を高めて読んでると著者の主張の輪郭が徐々に浮き出てくる、そんな感じの本であった。E・H・ノーマン(大窪愿二編訳)『クリオの顔』(岩波新書、のち岩波文庫)では、「歴史の効用と楽しみ」、「クリオの顔」などのエッセーを愛読した。やっぱり歴史学がいいと決断できた1冊だった。色川大吉『歴史の方法』(大和書房、のち岩波同時代ライブラ

リー、さらに洋泉社MC新書)は、歴史家の仕事部屋のひとつをのぞき見るような趣があって興味深かった。とくに「ヒーローの描き方」という1節が印象に残っている。

では、あまりにも広大な歴史学の領域から、こともあろうにオランダ史を選びとったのは、いったいなぜだったか。ぼんやりした記憶だが、大学1~2年生のころ、偶然授業のなかにオランダが頻出したせいかなと思う。いくつかの講義でオランダの歴史家J・ホイジンの存在を知ったこと、ある演習科目の英文テキストの著者がオランダ経済史のC・ウィルスンだったこと(『オランダ共和国』という訳書も堀越孝一訳で平凡社から出ていた)、そして上述のホイジンの『レンブラントの世紀』(栗原福也訳、創文社歴史学叢書)という名著に魅せられて再読、三読したことなどである。たぶん、それに加えて、『解体新書』の実質的な翻訳者、前野良沢を描いた歴史小説、吉村昭『冬

の鷹』(毎日新聞社、のち新潮文庫)をほぼ同時期に読んでいたこともオランダ熱をかきたてられた一因だろう(※学研プラス刊『歴史群像』2017年8月号、122頁参照)。

その後大学院に進学し、アルバイト教師もしながら研究生生活が続けていくうちには、スランプに陥ったり不安に苛まれたりすることもあった。そんなときに自分を救ってくれた忘れがたい本がいくつかある。最大の「読むクスリ」は、C・ヒルティの『眠られぬ夜のために』(第一部、草間平作、大和邦太郎訳、岩波文庫)と『幸福論』(同訳者による、岩波文庫、全3巻)であった。

ところが意外なことに、悩みごとをかかえているときに救ってくれたのは、上記のような本格的な人生論の書だけではなかった。近ごろはまったく手に取らなくなってしまったが、かつては定期的に推理小説を読んでいた。そんなおり、ただの気晴らしのつもりが思いがけず宝石のような言葉に出会って心が軽くなるという経験がいく度かあった。A・クリスティー(高橋豊訳)『動く指』(ハヤカワ・ミステリ文庫)のなかでは、医師の言葉が主人公だけでなく私自身をも癒やしてくれた。夏樹静子『椅子がこわい』(文藝春秋、のち新潮文庫)にいたっては推理小説ですらなく、副題に見えるように人気推理作家の「腰痛放浪記」なのだが、著者の腰痛という事件の本当の原因つまり真犯人がついに突き止められた瞬間、驚くべきことに、私自身が当時悩まされていたある肉体的苦痛もまた、その日を境に嘘のように消え去ってしまうという奇跡的な体験もした。

なお、今までに読んだ推理小説のなかでお気に入りといえば、同じクリスティーのミス・マーブルもののいくつか(『予告殺人』、『牧師館の殺人』など)と、日本のクリスティー、仁木悦子の『猫は知っていた』(講談社

文庫、のちポプラ文庫ピュアフル)などが上位に挙がってくる。だが、まったく別次元の醍醐味を味わえたのが、F・W・クロフツの『樽』(多数の訳者、多様な文庫)であった。英仏海峡が舞台のこの小説では、真犯人がだれかだけでなく、名探偵がだれかも見わけられないからだ。気づくと私はノートにメモをとりながらこのミステリを読んでいた。

同様に、専門の西洋史学の領域でも思わずメモをとりながら読み進めた書物として、ナタリー・Z・デーヴィス(成瀬駒男、宮下志朗、高橋由美子訳)『愚者の王国 異端の都市』(平凡社)を挙げておこう。今まで読んだ西洋史に関する書物のうち、少なくとも自分が専攻する時代に関してはベスト・ワンである。専門分野からもう1冊。ほぼ同じ地域と時代を扱ったL・フェーヴル『フランス・ルネサンスの文明』(創文社歴史学叢書、のちちくま学芸文庫)は、かつて自身の翻訳原稿にとりかかる前には必ず読んでいた。訳者の二宮敬さんの訳文が、簡潔で品格のある美しい日本語だったからだ。

さて、スペースも尽きかけてきた。青年時代に夢中になった井上靖の歴史小説(『天平の薨』をはじめとする西域五部作、新潮文庫)や、壮年期に枕もとで愛読した洲之内徹の気まぐれ美術館シリーズ(『絵のなかの散歩』、『気まぐれ美術館』、『帰りたい風景』、『セザンヌの塗り残し』ほか、新潮社)などには、どうやら触れられそうにない。ここまで書いてきて、はたと気づいたことがある。上に挙げた本のほとんどが、人から勧められて素直に手にとったというより、たまたま、あるいは必要に迫られて自ら主体的に選びとった本ばかりだ、ということだ。無くてはならない愛読書、座右の書となるものは、結局のところ、自分自身で見つけ出すほかないものなのかもしれない。

幸福はラーメンのようなものなので

－働き方改革に幸福感を意識してみては？－

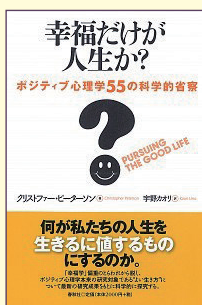
高木 亮

筆者は20年前に職業不幸（ストレス）研究の論文が認められ、なんとか研究者の末席に就くことができました。この10年はストレスなどの暗い話よりも前向きで明るい話題をライフワークにする必要を感じ、今は自称ですが職業幸福研究者です。そんな10年の調査研究の考察などをつくづく感じるのは、単語としては「不幸」と「幸福」は逆の意味ではありますが、両者は両立・併存しうる性質を有するという点です。ちょうど「辛い」と「甘い」みたいなもので「不幸」と「幸福」2つの感覚を混ぜても相殺・中和しないのです。そのため辛さをなくすことで甘さを感じられるわけではないように“不幸削減の努力が成功しても幸福にはつながらない”のです。逆に、甘辛いおせんべいが存在するように“病気や介護・看病など過酷な不幸を背負っても幸福を感じることは可能”なわけです。

同時に幸福は感じるものでもあります。幸福はWHO憲章の健康の定義である「Well Being」と定義したり、最近では「マインドフルネス」や「フロー」（精神的集中）などの感覚的状态を代替定義とすること

もあります。個人的に“定義が曖昧すぎるのはどうかなあ”と思うのですが、内閣府幸福度に関する研究会が2011（平成23）年末に“幸福は一つの指標だけで定義してしまわない方がいい”という主旨の見解を表明しています。“何を持って幸福とするか”も人それぞれ自由に考えていいというアバウトなことなのでしょう。ただ、押えておきたいのは幸福は“感じる”ものであって“なる”ことも“手に入れる”こともできないものだという点です。喩えるならば幸福はラーメンのようなものであって、“人間はラーメン（幸福）になることはできず”、“人間はラーメン（幸福）を手に入れても、しっかり味あわないと無意味”なわけです。ラーメン同様に幸福は人それぞれ、そのつどの好みを選択する自由度の結果の感覚として理解される必要があります。この辺を抑えておけば、福祉や教育や職場において“幸福になる”や“幸福を手に入れる”という幻の目標設定をするよりも、“幸福を感じる”ことができる心身維持と将来設計、人柄を確保が重要なのだといえるでしょう。お釈迦様は“人生は辛苦にあふれ

高木先生からのおすすめ本



C. ピーターソン著
宇野カオリ訳
『幸福だけが人生か？
ポジティブ心理学
55の科学的省察』
(春秋社)

コメント
病気の心理学から楽観
と幸福の大切さを指摘
した心理学の大家の
エッセー。読みやすさのなかにほのぼの感を
感じてもらえると思います。



前野隆司著
『幸せのメカニズム
実践・幸福学入門』
(講談社)

コメント
データの根拠に基づい
た成果を読みやすくま
とめています。詳細な
データに関心のある方
は『CiNii』で筆者の名
前を検索し、論文を取り寄せましょう！

ている”という主旨のことをおっ
しゃっていますが，“辛苦において
こそ幸福を感じられる感覚の維持”
が福祉と教育と職場経営において
重要であるといえます。

長い前置きの後に本題です。働
き方改革が法令整備にまでつなが
っており、注目されています。も
ともとは“人口減少を科学技術振
興で乗り越える”という文脈で提
案されていますが、法令では概ね
超過勤務上限（月45時間の基準と
80時間の過労死基準）にばかり議
論が進んでいます。確かに、過労
死の予防は重要ですし、この20年
のデフレマインドではびこった「ブ
ラック企業」や「やりがい搾取」
は我が国から撲滅せらるべきで
す。しかし、不幸の源を取り除い
ても明るい未来も幸福も自動的に
成立しません。明るい働き方改革
を福祉施設で学校で職場で、そし
て個人で不幸・不健康とは別途
しっかり考えるべきだと思います。

そこで明るく2点のご提案です。
1点目は科学技術の振興を敢えて
明るい視点でも見ようとする態度

を持つことのご提案です。鉄腕ア
トムは原子力で動いていますが、
毒・危険・事故にもなる「科学の子」
は未来を切り開く力としても要注
目です。科学技術の進歩を怖がら
ない姿勢が重要といえます。科学
技術や変革の負担も危険もあえて
楽観視してみてもはどうでしょうか。
2点目は不幸とは別の働き方改革
の指標として幸福に注目すること
です。花火のように刹那の楽しさ
も幸福ですが、その楽しさを目指
して積み立てる苦労を人は充実と
して幸福とも感じます。仕事も努
力も生きる（死を遠ざける）ため
のものですが、それだけだとさび
しいものです。仕事も努力も華や
かな楽しさとストレスを感じなが
ら積み立てる充実を感じるための
ものとして、働き方改革再定義を
してみると良いのではないでしょ
うか。楽しさも、また楽しさを求
めた苦労（充実）もそれぞれ楽し
むことは人生に華も実も就けるこ
とにつながると感じます。

図書館活動報告



新入生対象図書館ガイダンス (学生協働)
 ゼミ生対象図書館利用案内 (~6月)
 リユース本譲渡会
 企画展示「クラブ・サークル紹介」
 企画展示「そうだ!ブックハンティングへ参加しよう!」
読書会(学生協働)→学生体験記p.12-13



ブックハンティング
 (学生協働)
→学生体験記 p.13



企画展示
 「令和について:西本願寺本万葉集(複製)展示」
 読書会 (学生協働)



(水槽に夏の目標を記入)

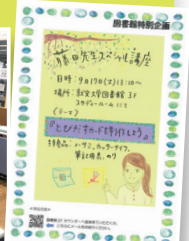


企画「図書館で願い事(七夕)」
 早朝開館
 企画展示「アポロ12号月面着陸50年」
 マナーアップ月間
 インターンシップ生受入
 映画研究部による動画撮影



**「大学図書館学生協働交流
 シンポジウムに参加」**
 (学生協働) →報告 p.8-9

図書サポ交流会「シンポジウム報告会」
 スペシャル講座
 「とびだすカードを制作しよう」
 (講師:藤田知里先生)



図書館活動報告



ゼミ生対象図書館利用案内
中学生職場体験受入（～11月）
読書会（学生協働）



図書館セミナー特集→報告p.8-9
小学校で絵本の読み聞かせ
（学生協働）→学生体験記p.12-13

企画展示

「学術講演会特集」倉敷街並みフィールドワーク報告

図書館グッズ・しおり制作→学生体験記p.10-11

弦楽アンサンブル部による図書館演奏会

写真部による図書館写真展

S commonsにてPOP展示会

→(学生協働)(～1月)p.12-13



ミニミニ講座

「ブックカバーを作ろう」(S commons)

スペシャル講座「教えてください!出版界の舞台裏」→報告 p.20

(講師: 柏書房 富澤凡子氏、平凡社 下中美都氏、筑摩書房 喜入冬子氏)

こども園で絵本の読み聞かせ (学生協働)

スペシャル講座「絵本翻訳の世界」(講師: 武部好子先生)

リアル謎解きゲーム

「ドジっ子魔女からのSOS」

(学生協働) →学生体験記 p.10-11

インターンシップ生受入



マナーアップ月間 (絵馬に今年の抱負を記入)

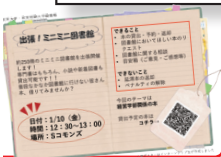
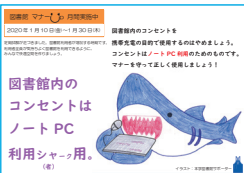
出張ミニミニ図書館 (S commons)

早朝開館

福袋企画

一般雑誌譲渡会

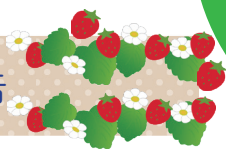
企画展示「心の癒しになる本」



図書館グッズ・貸出袋制作



シンポジウム参加報告



2日目：9月6日 金

9:00 ワークショップ「やりたいこと」を形にしよう!!

グループに分かれて、各自が考えた「ワクワクする図書館をつくる」ための企画を発表しました。改善、修正を重ねた企画に投票を行い、最も評価された企画はグループ代表として全員の前で発表しました。

<全体で発表された企画>

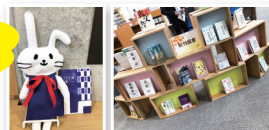
「私達…入れかわってる!? あの図書館の名は」「話題の図書館巡りツアー」「絶本迷宮」「ナイトツアー」「借り物競争in図書館」「色々福袋」「図書館×四十七大戦」「生き物展示」「のみの市(フリーマーケット)」「わすれんぼうの本棚」「SNSが面白い図書館を目指そう!」「謎解き脱出ゲーム(ミステリークイズラリー)」

11:55 閉会 12:10 昼食

13:00~ 島根県立大学
松江キャンパス図書館見学

15:00 松江駅到着 18:38 岡山駅到着

新しい図書館!本の飾り方が素敵♪
図書館キャラクターらぶちゃんが出迎える



宗近大空 (総合歴史学科3年) の感想

自分自身、シンポジウムというのは人生で初めての経験でした。始めるまでは緊張で、ドキドキでしたが、図書館をより良くしようと日々活動している他大学の学生さんと直接ふれあい、自分たちの活動を知っていただくことがこんなにも嬉しく、発見の多いものだとは思いませんでした。また、ワクワクする図書館を作るためにみんなで考えて話し合うことは本当に楽しく、こんな意見もあるのかと刺激にもなりました。今回のシンポジウムで「自分にとっての学生協働とは何だろうか?」ということを考える良いきっかけになったと思います。今回、学んだことを今後活かしていきたいと思えます。

馬庭茜 (表現文化学科2年) の感想

ワールドカフェやワークショップでは、自分よりも年上の方と話すことが多かったので、考え方がしっかりしていて勉強になりました。自分では思いつかないような面白い図書館の構想が多く、学んだものを今後活かせるようにしたいです。また、他の学校図書館の取り組みや図書館見学は個性豊かで大変興味深く感じました。自分達の活動も他大学の学生さんに興味をもってもらえたようで、とても嬉しかったです。

濱崎和洋 (総合歴史学科2年) の感想

シンポジウムでは、最初は不安や緊張を感じていました。しかしアイスブレイクといって、緊張をほくしてから取り組み始めたので、とても自然体で参加することができ、自分になかった多くの考えやアイデアを知ることができました。特に1日目のワールドカフェでは、ワクワクする事と一口に言っても物事を待ちわびるワクワクは長く感じるのに、楽しい時間を過ごす時のワクワクはとても短く感じたりするため、いくつかの種類に区分できるのではないかといい意見があり、自分の中でとても実感をもって聴くことができました。このようにシンポジウムでは自分の中になんとなく持っていた考えを具体的なものにする事ができて、とても勉強になりました。参考になる点もいくつも発見できたので今後の活動に活かしていきたいです。

原田満理子 (表現文化学科2年) の感想

他大学の様々な取り組みだけでなく、工夫や課題なども知ることができ、とても勉強になりました。他大学の取り組みのいいところをどんどん採り入れて、自分達の活動をよりよくしていきたいです。また、ワールドカフェ、ワークショップでは、ひとつのお題に対して様々な意見が出てきて、面白いなと思いました。他大学の学生の方の様々な意見をたくさん聞いて、私にとって良い刺激になりました。今回学んだこと、感じたことを今後活かしていきたいようにしたいです。

図書館より

分担して、ポスター制作、原稿の準備、名刺作りや報告書制作まで、協力して取り組むことができました。当日のポスター発表は練習したおかげでうまく説明も出来、他大学の学生さんと活動の楽しさ、やりがい、苦労や悩み等たくさん語り、共有することができましたね。この経験で、大きく成長したと思います。これからのサポーター活動で活躍してくれることを願っています!参加できなかった方も、来年は山口県でありますので参加しましょう!
学生の皆さん、ぜひ私たちと一緒に、図書館で学生協働をしませんか。図書館はいつでもお待ちしております!

報告会

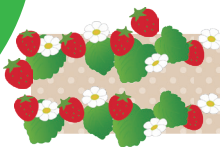
10/2(水)5限に、学生協働交流シンポジウム報告会を行いました。
シンポジウムに参加した図書館サポーター4名による報告、報告会参加者から活発な質問もあり、和気あいあいとした報告会となりました。
当日配布された資料や、他大学の学生さんが作った図書館グッズなどを実際に手に取りながら、新たに取入れた企画や各グループの活動について、簡単な意見交換をしました。



報告中!この夏何度も集まって準備しました



報告の内容にすっかり惹きつけられています!



第10回

図書館セミナー実施報告



講演の様子



倉敷クイズ

11月16日(土)13時から、本学図書館5階にて、第10回図書館セミナー「近世と近代が共存する倉敷～大原孫三郎の産業システムと大原總一郎のローテンブルク構想がつくった文化的景観～」を開催しました。この日は秋晴れで熱心な約70名の参加者の方々にも恵まれ、有意義なセミナーを開催することができました。

今年は講師として、就実大学非常勤講師の小西伸彦先生をお招きしました。

基調講演では、倉敷という地名になった由来に始まり、大原孫三郎が創り上げた産業システムがどう倉敷に影響を与えたのか、大原總一郎が発案した建築物にはどのような意味があったのか、今も残る倉敷の街の写真を交えながらお話いただきました。倉敷の美しい街並みは、江戸時代の町家と洋風建築、西洋建築の建物が共存しており、ただ残ったのでは

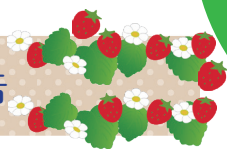
なく、あえて總一郎が文化的な景観を守り、残したのだと、感慨深く感じました。

小西先生の講演後は、図書館サポーターによる「倉敷クイズ」を行いました。小西先生と図書館サポーターの学生が考えたクイズを出題しました。倉敷アイビースクエアにある「二三」のマークの意味や壁が黒い理由、紡績工場の屋根がなぜノコギリ型なのかなど、難しい問題もありましたが、参加者の皆さんから正解の回答も相次ぎました。正解発表の際には、小西先生から講演では聞けなかった詳しい説明やエピソードを交えて補足説明があり、大変盛り上がりました。

その後、図書館職員の案内で、参加者の方々には図書館を見学していただきました。

図書館セミナー開催にあたり、連動企画として、講演のテーマである倉敷に実

図書館セミナー実施報告



倉敷散策

際に小西先生と図書館サポーターが訪れました。今も残る美しい倉敷の街並みを自分たちの目で見て、大原孫三郎と總一郎が築いた倉敷に残る西洋建築の歴史をたどりました。普段はあまり気に留めなかった場所にも、大原家が残した歴史の産物があり、小西先生に解説していただくことで、今まで気がつかなかった倉敷の文化的な一面を知ることができました。

フィールドワークの際に撮影した写真や、図書館サポーターが作成した大原家にまつわる場所をまとめた地図などは、2階ブラウジングコーナーに展示しました。倉敷の中心部の地図を改めて見てみると、倉敷駅、倉敷中央病院、倉敷市立美術館、倉敷市民会館が四つの櫓のように倉敷の街を守っていたことがひと目で分かり、小西先生の講演の内容を、より

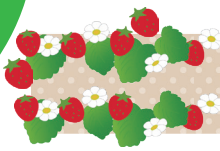
深めることができました。

小西先生の素晴らしいご講演はもちろん、図書館サポーターにも多大な協力をしてもらい、大変有意義な図書館セミナーとなりました。

次回も地域の皆さんの期待に応えられるよう、図書館サポーターとともに、より充実させていきたいと思います。どうぞご参加ください。



ブレイクコーナー企画展示



図書館グッズ

表現文化学科 山口 美咲

グッズ作成班は昨年度に発足し、図書館のオリジナルグッズの企画・作成をさせて頂いております。昨年度は、図書館ゲームの景品としてミニ巾着を作成しましたが、今年度は葉を作成し、2ヶ月おきに配布しました。利用者の皆様が読書をする際のささやかな手助けになりますよう、ひとりひとりの班員がデザインを考え、消しゴムはんこを用いたり、イラストを描いたりなど工夫を凝らし、素敵な葉が出来上がりました。



有難いことに、7月、8月分の葉は1週間ほどで全て配布し終え、好評だったと図書館のスタッフさんからお話を伺いました。こんなにも早く、配布が終了するとは思っておらず、驚きましたが、私たちが作った葉をたくさんの方々の手にとっていただけたようで、とても嬉しく思います。今年度はしよりの作成以外にも、レポートなどで本を沢山借りる際に何か袋があれば嬉しいという利用者の方からの声から貸出袋の作成も現在進めております。これからも利用者の皆様が心地よく就実大学・就実短期大学図書館を利用していただけますよう、グッズ製作に尽力してまいりますので、よろしく願いいたします。また、図書館をご利用の際には完成したグッズも手に取っていただければ幸いです。

読書会

表現文化学科 吉賀 ちひろ

読書会は、毎回事前に決めておいたテーマに沿ってメンバーに本をプレゼンする企画です。今年度は自己紹介代わりの「自分の好きな本」季節に合わせたテーマである「真夏に読みたい納涼ホラー」などのテーマで行いました。

準備は原則1人1冊ずつ、テーマに沿ったプレゼンしたい本を選ぶだけです。プレゼンの時間に制限はなく、会が始まると各々が思いの丈をゆるーくぶつけていきます。全員のプレゼンが終わると、気になっていた本の話をもっと聞いてみる、これの映像化がこんな風によかった、こんなお話が好きならこんなのも、など元の本だけに限定せずに雑談をしていきます。基本的には1時間を想定していますが、盛り上がると1時間半があつという間に過ぎることも…。自分がプレゼンした本を自分と違う視点から面白がってくれたり、読んでみたい！と言われたり、自分が知りもしないような本に出会えたりするなど「誰かと本を読んだ体験を共有する」からこそ楽しさが詰まった時間を過ごせています。

今年度は最大6人、記事執筆時点で3回活動しました。先輩後輩や学科の壁を越えて和気あいあいと物語について話せたと思います。読書会は誰でも気軽に話しに来れる場所ですので、ぜひお気軽に本を持ってご参加ください！

POP作成

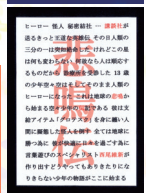
生活実践科学科 一安 美里

私たちPOP製作班は、今年度から発足し、様々な本のPOP作りや、図書館の展示の飾りづくり・展示のお手伝いを行っております。今年度は、月に2枚のPOP作りを目指して活動を続けました。また、12月4日の各出版社の方をお迎えする図書館イベントのために、訪れた方が出版されている本のPOP作りも行いました。

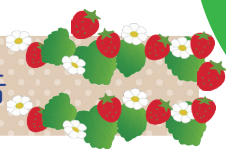
今年から始まったこともあり、先生からPOP作りの基礎やコツを教わったり、自分たちでPOPについて調べ、少しでも多くの方に見てもらえるよう試行錯誤しながら自分の好きな本のPOP作りを行いました。

最初はどのような反応を頂けるか、また、上手くできるか不安でいっぱいでした。しかし、多くの方に称賛の声をいただいたり、自分が書いたPOPの本が実際に借りられている様子を見ると、とても嬉しく、かつ達成感が大きかったです。

本が好きな方でも苦手な方でも少しでも本を読むきっかけを与えられるようなPOP作りや展示を今後も行っていきます。



図書館サポーター自主企画報告



絵本の読み聞かせ

総合歴史学科 宗近 大空

私達、読み聞かせ班は今年度、就実こども園と就実小学校の2ヶ所で読み聞かせを行いました。こども園では3歳児、4歳児、5歳児を対象に、就実小学校では、1年生、2年生を対象に読み聞かせを行いました。この企画には図書館サポーターが合わせて8名参加しました。読み聞かせの内容は、最初に自分たちの自己紹介をし、次に子供たちと一緒に手遊び歌をしてお互いの緊張をとき、それから絵本の読み聞かせを行うという内容でした。

はじめに行った手遊び歌では「ミッキーマウス」や「ぼうがいっほん」などを行いました。始めるまでは子供達がどんな反応をするだろうかとみんなドキドキしていましたが、やってみると子供達が手を出して一緒になってやってくれました。子供達が笑顔で楽しそうにやってくれたのが私達にとって本当に嬉しかったです。

そして、いよいよ読み聞かせが始まると子供達はみんな真剣に静かに聞いてくれました。「にゃーご」や「三びきのこぶた」を読んでいる時にはページをめくるごとに指を差して反応してくれたり、「この絵本読んだことある～!」「知ってるお話と違う～」などなど沢山の嬉しい反応もしてくれました。最後には「また来てね」と言われたのも印象に残っています。

今回の読み聞かせでは、こども園、小学校の子供達に喜んでいただけたのが何よりも嬉しかったです。今回学んだ経験を活かして、次回はさらに良い読み聞かせができるように、今後も活動を頑張っていきたいと思います。



図書館ゲーム

総合歴史学科 濱崎 和洋

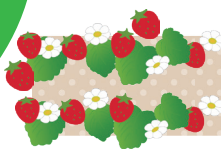
2016年から始まったこの企画も今年で4年目を迎えました。今年も図書館サポーターの有志の方々を中心として、図書館の職員の方の協力も得ながらゲームを作成しました。

この企画はメンバーが毎週集まって準備を進めているのですが、今年はメンバーが増えた分全員が集まることのできる時間が限られてしまい、意見や情報の共有に気を付けなければならないという問題に直面しました。また、今回のゲームではゲーム中に使用する小物の数が多く、それらを計画的に作るために上手く役割分担を行わなければなりません。さらに、この企画の開始時のテーマである「図書館の普段あまり知られていない場所を多くの人に知ってもらおう」とこと、ゲームとしての面白さをどう両立するのかという問題があり、非常に悩ましい状況でした。

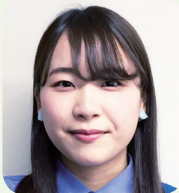
しかし、先輩・後輩の関係に囚われずに率直な意見を交換して、ストーリーの原案を練り上げたり、LINEなどの連絡手段を用いて互いに情報を共有するように心がけることでなるべくスムーズに準備を進められるようにしました。また、クイズの内容や難易度も何度も意見を交換し、結果としてより良いものを作り上げることができました。

今回のゲームのアンケートをもとに次回のゲームでは参加者がより楽しめるものを作成します。皆様、是非とも参加してください。





卒業する図書館サポーターからのエール



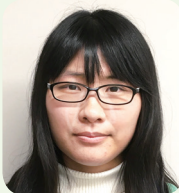
主にグッズ制作班での活動を通して、わくわくするような図書館づくりを目指してきました。これからも、みなさまのご活躍と、大好きな就実図書館の成長を楽しみにしております。今まで本当にありがとうございました。

(表現文化学科 安宅 星夏)



私は毎年、新入生対象の図書館ガイダンスに参加させて頂きました。新入生に利用方法を説明する中で、自分自身も図書館の仕組みや裏側を覗くことができ、大変楽しく、勉強になりました。後輩の皆さまのご活躍を願っております。

(総合歴史学科 近藤 吉純)



私は2年生になって図書館サポーターに所属しました。様々な体験をさせて頂きましたが、一番力を入れて活動したものは、図書館ゲームでした。ストーリーや問題を考えたり、景品・小物を準備したりと大変でしたが、とても楽しく活動できました。私は、現在社会人として頑張っている先輩方の意向を汲んでゲームを続けるようにしてきました。しかし、やはり思い入れが強いのか、後輩の皆さんには迷惑をかけますが、引き続き企画を練ってほしいと思っています。

最後になりましたが、図書館の職員の皆様、同学年のサポーターの皆さん、図書館ゲームと一緒に企画してくれた後輩の皆さん、あまり話ができなかった後輩サポーターさん、大変お世話になりました。本当に、ありがとうございました。

(総合歴史学科 大野 湧葉)



図書館サポーターになって、絵本の読み聞かせや新入生オリエンテーションなど様々な体験ができました。私が一番印象に残っているのは「大学図書館学生協働交流シンポジウム」です。他大学の図書館サポーターの方々と交流できたからです。また、このシンポジウムをきっかけに図書館サポーターになったので、一番印象に残っています。

図書館サポーターを通じて、職員の方々や学科、学年関係なく、同じ図書館サポーターと一緒に活動ができて良かったです。これからも図書館を盛り上げていけるように頑張ってください！

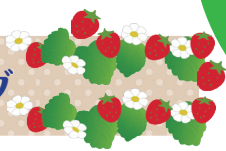
(総合歴史学科 中山 唯)



図書館サポーターとして、少しのあいだでしたが在籍させて頂きました。特に印象に残っているのは、毎年新入生に対し行うオリエンテーションです。館内の案内や説明を丁寧に行いました。小中高等の規模の図書館とは違い、大学の図書館というものは利用するだけでも一苦労の膨大な資料や部屋、個室などの設備が充実しています。学生たちは、まず利用方法からオリエンテーションで学び、自分だけの図書館の使い方を覚えていきます。そのためにまずは私たち図書館サポーターが「本が好きであること」「図書館を知っていること」が大切なキーワードになると考えています。私が行ったときは、後輩に知り合いが多く、使い方がまったくわからないという人もいました。そんな人たちのために、「どうやって一回でも多く図書館に訪れてもらえるか」を伝えるのが我々の仕事であるところの活動を通して学びました。そんな人たちが増え、この就実大学図書館を支えて続けていただけると嬉しいです。

(総合歴史学科 長尾 美香)

ブックハンティング



ブックハンティング体験記

総合歴史学科 松尾 萌江

私は2年次の夏に丸善岡山シンフォニービル店にて、初めてのブックハンティングに参加させていただきました。大学図書館に置いてほしい書籍を自分で選ぶことができると耳にし、興味が湧いたため、参加を決意しました。勝手にわからない状態で参加しましたが、書店員の方や大学図書館の司書の方々の丁寧な説明のおかげで、滞りなく作業に取り組むことができました。



また、いざ書店に行ってみると「あれも読んでみたいな」という本に次々と目移りしてしまい、予算の1万円を超えてしまいそうになりました。でも、そこがブックハンティングの魅力だと私は思います。最近は電子書籍の普及やインターネットによる書籍の購入が当たり前となり、書店に足を運ぶ人が減っているように思われます。それに対し、ブックハンティングは実際に足を運んで現物を手に取り、じっくりとその書籍と向き合うことができます。加えて、様々な分野の本棚に囲まれることで、今までは興味がなかった分野の書籍が自然と目に入り、新しい「興味」を教えてくれる書籍と出会う機会を与えてくれます。

選書後は、自分が選んだ書籍のPOPを作成します。この作業も初めての体験であったため、どうしたら皆にこの本の魅力を伝えられるのかと試行錯誤して作成しました。時間をかけて悩みながら完成させたため、自分が選書した書籍が貸出されていることを知った時はとても嬉しかったことを覚えています。

ブックハンティングは選書を通して、新たな書籍と出会う機会を提供し、POP作成を通して、限られた紙面内での第三者へのプレゼンの工夫を学ぶことができる素敵なイベントです。来年は、卒業論文の作成に活用することができる書籍を探すために、また参加させていただきたいと思っています。

第6回 ブックハンティング報告



学生協働の一環として始めた「ブックハンティング」も、早6年が経ちました。その間にも学生の読書離れが進み、この行事の継続も心配されましたが、2019年度も本を愛する人々が参加してくださり、121冊の本を選書しました。



選書後の大イベントは、紹介POPの作成です。参加者は思い思いの切り口で、作品のキャッチコピーを考え、自分たちの感想も織り込みながら、会心のPOPを作っていきます。POPの威力は凄まじく、図書館を訪れる人々は必ず立ち寄っています。一つのPOPが、一冊の本から始まる豊かな世界観を、体感するきっかけとなるよう願っています。



2020年度も夏開催します。本が好きなのもそうでない人も、選書する楽しさ、紹介する醍醐味を体験してみませんか。参加者募集中です。

★ブックハンティングとは？

書店で好きな本を選べるイベントです。選書額の範囲なら何冊でも選ぶことができ、選んだ本は図書館の書架に並び、優先的に貸出ができます。これは、学生協働(図書館業務の一端を、職員とともに、利用者でもある学生が担う活動)の一環で、学生の主体的な学びへのきっかけとなることを期待しています。

★ブックハンティングの流れ

【学生】書店にて選書→【図書館】重複等チェックして本を購入→【図書館】受入・目録・分類等登録作業→【学生】POPを作成→貸出開始・新着図書コーナーへ一定期間展示

【1回目】実施日：6月29日(土)

場 所：丸善岡山シンフォニービル店

参加者：学生12名+教職員3名

【2回目】実施日：7月6日(土)

場 所：紀伊國屋クレド岡山店

参加者：学生6名+教職員3名

綾辻行人著

『Another(上)』・『Another(下)』
(KADOKAWA/角川文庫)



とある中学校が舞台のホラーミステリーです。テレビアニメ化、実写映画化もされた作品です。

夜見山北中学三年三組に転校してきた主人公の榊原恒一は、何かに怯えるようなクラスの雰囲気やクラスでいないもののように扱われているミサキメイの存在に違和感を覚えます。そうしたなかで、クラスメイトが悲惨な死を遂げ、ここから死の連鎖が始まり、恒一もその不思議な現象の当事者として巻き込まれていきます。

全体を通して良いも悪いも含んだ人間らしさが感じられる作品だと思います。映像ではなく、文章で情報を得るからこそ、ラストの展開に驚きが待っています。最後にすべての謎が解けるシーンが、読んでいてスッキリして大好きな作品です。

(表現文化学科 田淵里菜)

柘野俊明著『比べず、とらわれず、生きる』
(PHP文庫)



禅寺のお坊さんによる34の禅の知恵。たった一つの言葉によって、心が救われたり、逆に傷ついたりすることがあります。言葉にはそれだけの大きな力があります。

頑張りすぎてしまったと感じた時に、私はこの本を読んでペースダウンするようにしています。心がざわざわして落ち着かない、他人と比較して自分に嫌気がさしてしまう、そんな時は、昔から延々と受け継がれてきた禅語を手にも、少し心を休めてみてはいかがでしょうか。

(経営学科 武上礼佳)

雪乃紗衣著

『エンド オブ スカイ= END OF SKY』
(講談社)



この本はブックハンティングに参加した際に、どうしても諦めきれず選ばせていただいた作品です。見渡す限り本が並ぶ中で、視界の端にこの表紙が映った時、私にはこの1冊が他のどれよりも輝いて見えたのです。

美しい、とは何でしょうか。自分の理想の姿はきっとそうでしょうが、自然のままの姿が醜いわけでもない。けれど人々はそれを望む。そうして皆が願う程リスクは寄り添い、誰かへは責任が纏わりつく――

文系だって理系だって楽しめる、きっと遠くない将来で、‘もしも’のお話。

(薬学科 時長はるか)

小野寺史宜著

『ひと』 (祥伝社)



主人公の清々しい芯のある決断力に魅了され、一気に読み進めた1冊です。主人公が老人に譲った50円のコロケが、彼の人生に新しい爽やかな風を吹かせたように感じます。主人公が、周囲の人との繋がりや出会いに

触れて生きていく姿を見ると、私も爽やかに清々しい、生きていく中で何か一つ大切にしたいことを見つけたいと考えさせてくれた本です。主人公の温かい振る舞いの中にある、揺らぐことのない信念を感じられます。また、人との関わりを通して、目標や生き方を見つけていく姿は、応援したい気持ち、憧れの気持ちにさせてくれます。私は本を読みながら、生きてきた中での人との出会い、繋がり、ご縁を改めて振り返り、人の温かさについていなくて考えた1冊です。

(教育心理学科 小川聖李叶)

辻村深月著

『ふちなしのかがみ』

(KADOKAWA/角川文庫)



「ある条件を満たした状態で鏡を見ると未来の自分の姿が映る」そんな都市伝説をモチーフにした表題作を含めた、子どもの頃に怖がりながらも惹きつけられていた怪談話のような不気味さのある短編5作品が収録されている。トイレの花子さん、こっくりさん、誰もが一度は聞いたことのあるような都市伝説を取り入れたどこか懐かしいような怖さを感じることができる。

読み終わった後に考察を誰かと語り合いたくなる、ミステリー好きにもホラー好きにも手に取ってほしい一冊です。

(総合歴史学科 谷岡佳奈)

鴨頭嘉人著

『マクドナルドで学んだ

すごいアルバイト育成術』(新潮文庫)



アルバイトをしている方、又はこれから始めようとしている方におすすめです。セリフ回しが多いので、小説が苦手な方でも歯切れ良く、淡々と読み進めていくことができます。

この本を読むと、ただ何気なく通っているアルバイトに、今の100倍のモチベーションを持って臨むことができます。加えて、働く上で大切にしていかなければならないこと、例えば挨拶や報連相、失敗の活かし方などを鴨頭さんの経験談から学ぶことができます。

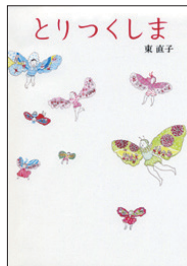
この一冊で、「やる気」を引き出し、自ら人生を切り開いていきませんか。

(実践英語学科 川内康平)

東直子著

『とりつくしま』

(ちくま文庫)



死んだあなたに、「とりつくしま係」が問いかける。この世に未練はありませんか。あるなら、なにがモノになって戻ることができますよ、と。そうして母は息子のロージンバッグに、娘は母の補聴器に、夫は妻の日記になった…。すでに失われた人生が凝縮してフラッシュバックのように現れ、切なさや温かさや哀しみ、そして少しのおかしみが滲み出る、珠玉の短篇小説集です。短編なので、バスや電車の待ち時間にも安心するようなストーリーが読めます。死後の世界に興味がある、死への不安がよぎったことのあるあなたには是非読んでほしい一冊です。

(初等教育学科 朝原菜摘)

大泉洋著

『大泉エッセイ～僕が綴った16年』

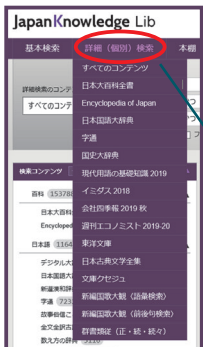
(KADOKAWA)



大泉洋さんの『大泉エッセイ 僕が綴った16年』という本を紹介する。2013年に刊行された本だが、今読み返してみてもお腹がよじれるほど面白い。雑誌に掲載するエッセイとして、執筆されているので一つ一つが短く、読みやすい。数あるエッセイの中でも、私は「ドライブナー」がお気に入りだ。私が綴る言葉ではこの面白さは伝わらない。実際に大泉さんの本を手に取り、読んでほしい。普段、読書の習慣がない人にもこそ勧めたい1冊だ。

(生活実践科学科 西山響)

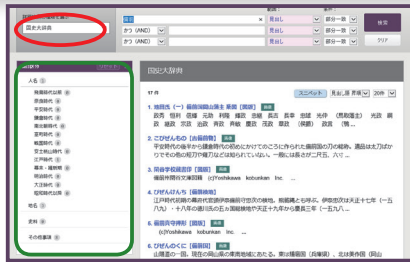
詳細（個別）検索からコンテンツをみる



自分が調べたい辞書や本を選んで、効率よく検索することができます。さらに、検索画面の左側にある検索項目から絞って、検索結果を表示できます。「日本大百科全書」「国史大辞典」「現代用語の基礎知識」「会社四季報」など

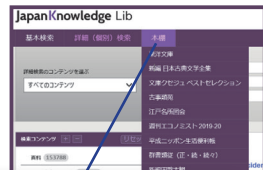
詳細検索から辞書名（書名）をクリックして検索

（例：国史大辞典で「備前」と入れて検索）

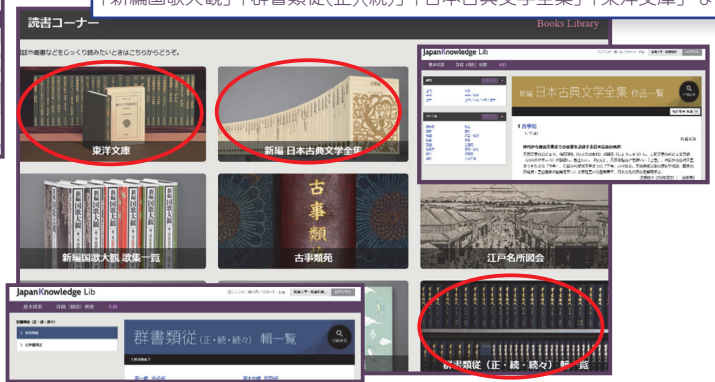


本棚からコンテンツをみる

読みたいコンテンツを選んで、収録順に表示された画面から読むことができます。「新編国歌大観」「群書類従(正)(続)」「日本古典文学全集」「東洋文庫」など



本棚から読みたいコンテンツをクリック

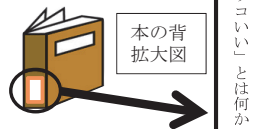


新書を探して見よう！① ～講談社現代新書編～

“「講談社現代新書」ってどこにありますか？”という質問をよく聞きます。

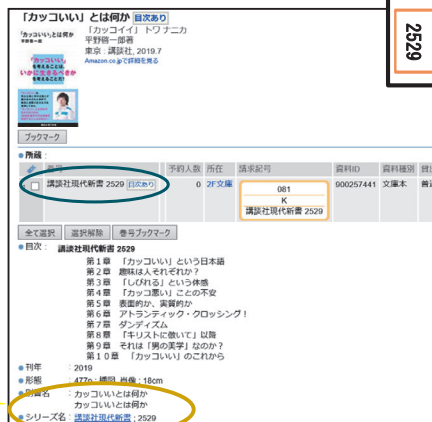
★新書を探すポイント★

OPACで検索 → 所在に **2F文庫** と表示されたら → シリーズ名や巻号に注目!!
例：『講談社現代新書 2529(巻号)』と表示されます本の背に右の図のようなラベルが貼ってあります。
*巻号順に並んでいます。

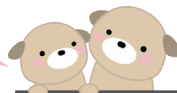


「カッコいい」とは何か 2529

必ず『シリーズ名・巻号 書名 著者名』をメモしましょう。文庫コーナーの配置の地図をOPACコーナーに貼っているの、確認しましょう。



声かけてね



図書館とコラボしませんか

図書館のスペースを利用して、作品の展示やイベントを開催しませんか。例えば、絵や写真を飾ったり、演奏会や絵本の読み聞かせ、動画撮影、利用者参加型のゲームを行ったり・・・と可能性はさまざまです。アイデアのある方は、お気軽に図書館職員へお声かけください。



写真部図書館写真展



映画研究部「図書館紹介」動画撮影中

弦楽アンサンブル部図書館演奏会

図書館では毎年スペシャル講座を開催しています。講師は学内の先生だけではなく、学外からもお招きしています。

2019年12月には出版社の社長さん3名をお招きして、出版界の現状と課題を直接お聞きする講座を開催しました。第1部では各社一押し作品を中心に、本や雑誌を發表することの意義や醍醐味についてお話いただきました。第2部では「出版社の求める人材」や「就職するための勉強方法」「校閲について」など、学生からの質問に回答していただきました。第3部ではフリートークを実施し、15時から始めた講座でしたが、予定の時間を過ぎて、社長さんとの熱いセッションが続き、充実した講座となりました。

今後も盛りだくさんの内容で講座を企画しますので、参加をお待ちしています。

お話を聞きたい先生や興味のある分野があったら、図書館職員へご相談ください。



図書館スペシャル講座
教えてください！
出版界の舞台裏

日時 12月4日(水)15時00分～
場所 図書館5階研修ホール

定員 80名

内容 第1部：各社リレー講演(講師3名×20～25分)
第2部：事前アンケートによる回答タイム
第3部：参加者とのフリートーク

講師
株式会社エディオン 代表取締役社長 下中実祐
株式会社エディオン 代表取締役社長 下中実祐
株式会社エディオン 代表取締役社長 下中実祐

参加者
下中実祐
下中実祐
下中実祐

図書館スペシャル講座へ
参加しよう！



共翔 第27号

令和2年2月20日発行

編集・発行
就実大学・就実短期大学図書館

〒703-8258 岡山市中区西川原1-5-22 TEL(086)271-8134 FAX(086)271-8275
ホームページ <https://www.shujitsu.ac.jp/toshokan/>

※館報の題字は押谷善一郎名誉教授の書によるものです。